

成田山貫首の社会へのかかわり

中興第十四世 三池照鳳 嘉永元年(1848)～明治 29 年(1896) 明治 27 年退隠 49 歳遷化
略歴 嘉永元年(1848)成田に生まれる。安政 4 年新勝寺十一世照嶽上人に従って得度、
慶応 2 年京都智積院に入り灌頂をうける。明治 6 年密蔵院住職となり、明治 16 年 **35 歳の若さ**
で新勝寺 14 世貫首に就任。明治 19 年新義派大学林の創立に参画、明治 20 年英漢義塾の創立に
尽くし、同年千葉感化院院長となる。また明治 26 年から成田鉄道の架設に尽力するなど、多くの
社会福祉活動に取り組んだ。**明治 27 年退隠**し、智山派独立運動に賛同、独立願を内務卿山県
有朋に呈出するが、明治 29 年 **49 歳の若さ**で没した。
成田鉄道の開通、智山派の独立は師の没後達成した。

中興第十五世 石川照勤 明治 2 年 (1869) ～大正 13 年 (1924) 55 歳遷化
新勝寺の貫首として地域の文化・教育事業をおこした高僧
明治時代、新勝寺の貫首である石川照勤上人は、地域の文化・教育事業を興しました。
今日、成田山の五大事業の推進、成田中学校 (成田高等学校)、成田山女学校 (成田高等女学校)、
成田図書館 (成田山仏教図書館)、成田幼稚園、成田山感化院 (成田学園) を造った。
また、成田山公園も造り始めています。照勤上人は、埼玉県川越にある本行院 (川越市)
住職石川照温の養子となる。照勤上人にとって最初の修業は、印旛郡直弥村 (今の佐倉市直弥)
にある宝金剛寺でした。ここで約半年間修行した後、京都で学び僧侶としての就学課程を修了し
た。明治 27 年 (1894) 1 月 31 日、照勤上人が **24 歳**のとき、照鳳上人の後を継いで、成田山中
興第 15 世となった。明治 31 年 (1898) 3 月、照勤上人は、**欧米に留学**した。留学に先立って、
上人は集まった塾生に「世界に向け、志を大きく持つように」と話した。明治 33 年 (1900) に
帰国した照勤上人は、成田山の興隆と地域の文化・教育事業に着手し生涯にわたって心血を注ぎ
ました。
照勤上人は、事業の発展を見届け大正 13 年 (1924) 1 月 30 日に 55 歳の生涯を終えました。
佐倉市教育委員会発行 「佐倉市郷土の先覚者」 シリーズ 小事典 I より

成田山仏教研究所	成田山勸学院 (真言宗智山派宗内教育機関)
学校法人成田山教育財団	成田高等学校・付属中学校
成田高等学校付属小学校	成田幼稚園 はぼたん幼稚園
社会福祉法人成田山福祉財団	成田学園 (児童養護施設)
財団法人成田山文化財団	成田山仏教図書館
成田山霊光館 (歴史博物館)	成田山書道美術館

中興第十八世 荒木照定 明治 25 年 (1892) ～昭和 40 年 (1965) 73 歳遷化
1924 年 (大正 13 年) に貫首となる。1925 年 18 代貫首荒木照定、初の海外視察。
場所はロンドン、帰国後の 1928 年、欧米偏重の風潮を嘆き「新更会」結成する。
1938 年二年早く 開基一千年祭が開かれる。以後これを基準に〇〇年祭が行われている。
1938 年には陸海軍に「**新勝号**」「**成田山号**」と名づけた戦闘機を献納、また真珠湾攻撃の
翌日にはそれぞれに **10 万円**を献納するなど、戦争の**新勝寺は積極的に協力した**。
1943 年 奥の院境内より **1000 本の木材**を造船用に海軍へ献納
境内を見ると台座だけで上部が無くなっている奉納物も多くこれらは、金属類回収令により
供出されたのでしょう。この時期新勝寺は戦争に積極的に協力していたようです。